

平成26年度

平成27年3月

# 嵯峨野だより 3月臨時学校評価特集

京都市立嵯峨野小学校 校長 竹内 直美  
TEL 075-861-4177 FAX 075-861-4178  
http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/sagano-s/

## 後期学校評価を終えて

後期の「おたずねアンケート」ご協力ありがとうございました。寄せられました保護者・地域の方々のご意見や普段の子どもたちの様子から、来年度にかけて学校としての取組をまとめましたのでお知らせします。これからも「学校評価」をもとに学校の改善に努めてまいります。

本校では教育活動を振り返り、改善・充実を図るために年に2回の学校評価を実施しております。同時におたずねアンケートをもとに親子で学校のことを話し合う機会としています。

12月に第2回アンケートを実施しました。保護者の皆様には、お子さまの姿を通して学校の教育活動に対しての評価をいただくアンケートを実施させていただきました。今回はその結果と今後の取組方針を報告をさせていただきます。保護者、地域の皆様には内容を理解していただき、今後とも多方面においてご協力をお願いいたします。



## 確かな学力

### 成果と課題

○言語活動能力については発表や話し合い活動を進んでできるようになりました。相手を見て話すこともできているようです。しかし表現力にはまだ課題があり、単語や短い言葉で発言したり、要点なく話し続けるような児童も少なくありません。

○朝のウォーミングアップタイムでは漢字や計算問題など繰り返し反復練習することができました。次は自分の苦手な問題を自分で見つけ出し、重点的にやり直してできるようになるようになってほしいと思っています。

○学習に積極的に取り組み、基礎的な力をつけてきた児童が増えてきているようです。しかし内容が難しくなってきたり、力を発揮しきれていない児童との学力の差が大きくなっています。本人の学習に対する姿勢だけでなく、周囲も学習に取り組める環境をつくるのが大切です。

○本好きな児童は多いようですが、本の種類については分かれず。文字中心の物語・小説を読んで想像力を広げる児童、写真や説明で知らない世界の旅ができる図鑑や事典・科学読み物を読む児童、挿絵や漫画をたくさん取り入れ気軽に読める本ばかりを読む児童…。多いのは気軽に読める本を選んでいく児童です。本好きといっているのかどうかは判断が分かれるところ。ただ、物語・小説はもっと読ませたいと思います。



### 改善への取組

○引き続き話す機会は多くとりたいと思います。工夫によってどんな活動でも話し合いができます。その際ただ話すだけでなく、言いたいこと・要点を必ず意識すること、そのためには例えば話し合い前に考える時間を設けたり、発言用のメモを利用したりするなどの工夫を取り入れたいと考えます。

○ウォーミングアップタイムでは漢字や計算の練習だけでなく、短文の読み取りや文章問題などにも取り組んでいます。さらにできることを考えて、一人一人の基礎的な学力を育てたいと思います。

○どの児童も力が発揮できるよう教材研究に努め、一人一人の課題に応じた指導法も工夫していきます。授業中だけで不足があれば休み時間や放課後等を利用して個への対応も図っていきます。またご家庭へも連絡や点検等をお願いして宿題や家庭学習を必ずやりきらせ、力をつけていきたいと思っています。

○国語等各教科で出てきた教材の関連図書を積極的に紹介して、いろいろな分野の本に興味をもつようにする。また読んだ本の冊数だけでなく、内容にも関心をもたせるよう働きかけていきたい。ご家庭の協力も必要で、生活の中で読書の時間の確保もお願いしたいと思います。

## 豊かな心

### 改善への取組



### 成果と課題

○学年内で方針や進め方などを常に話し合い、できるだけ学級間で差が出ないようにして取り組んできたことで、児童には学年の一員だという自覚が育ち、多くは発達段階に応じた成長をしています。

○道徳の時間、読み物資料などを通して心情を考え話し合いを繰り返してきたことで、思いを深め道徳的価値について考えられるようになってきました。この後は身に着けてきた道徳的な価値をさらに育て実生活の中で生かしていけるようになることが大切になってきます。道徳の学習はすぐに効果が現れるものではないといわれます。これからも繰り返して学習することで人間として成長してほしいと思っています。

○たてわり活動や全校集会活動をより多く取り入れた結果、高学年と低学年の関係が良くなってきているようです。やさしさと信頼、この関係が異学年間や同学年内に育ってきています。今後も誰に対してもやさしさと信頼の関係を大事にしたいです。

○挨拶や言葉遣いはやや乱雑になってきているようです。よりより人間関係を作るためにも、気持ちの良い挨拶、心に響く言葉遣いを心がけたいです。

○学年全体でめあてをもち活動することによって、学年内の連帯感をもつようにしたいと思います。活動としては学年体育や集会活動をはじめ学年討論会、共同研究、授業交換などを行うことで横のつながりをさらに深めていくようにします。

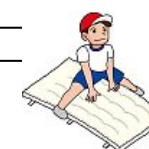
○道徳の学習と他の教科・教材また学校行事等との関連についてはこれまでも「嵯峨野カリキュラム」を作成し取り組んでいます。さらに教科・行事を見直して、学校生活にさまざまな場面で、決して押し付けではなく道徳が意識できるようにしていきたいと考えています。

○喜びを味わわせたいと思います。人のために何かをする喜び、喜んでもらう喜び、感謝の言葉を受ける喜び、大勢の仲間と共に達成する喜び…自分だけの満足でなく周りの人からも認められるような心温まる行動を大切に考え、児童がそれらをたくさん経験できるよう工夫します。

○学校内に来ておられる人は、すべてお客様です。お客様には「おもてなし」の気持ちでさわやかに挨拶をします。美しい言葉を遣います。誰に対してもこの気持ちをもつよう繰り返しの指導になります。

## 健やかな体

### 改善への取組



### 成果と課題

○ゴールデンウィークや長期休業のあと生活チェックを行うことで、早く学校生活のリズムを取り戻す児童がたくさんいました。「早起き」「朝ご飯」については多くの児童が実行できています。

○就寝時刻についてはだんだんと遅くなっているようです。いろいろなご事情もあるでしょうか、朝の排便習慣も合わせて、健康面を第一に考えて子どもたちによい習慣を身につけさせることが大切だと思います。

○毎日の欠席者数は平均 10～15 人程です。全体的には少ない方だと言えます。一時期インフルエンザの流行もありましたが、運動や食生活に気を付けていることで概ね健康な生活をしていると言えます。

○安全面では自転車、歩行者の交通ルールが守れない場面もよくあります。道一杯に広がって歩く、自転車では右側通行をしているなどが気になります。

○食育指導も充実しました。給食の残菜が少ないので、全体的によく食べていると言えます。

○生活チェックについては実施の前に目的や方法・ご家庭での協力等を書いたお知らせを配布した上で行うようにします。またその結果は学級・学年だよりなどで早くお返しし、学校と家庭が連携して改善に取り組めるようにしたいと思います。

○朝の健康観察の際、ときどきは前夜の就寝時刻や今朝の排便等に関してもチェックをしたり関連の話をしたりするようにして、その大切さを知らせ実行できるようにしていきます。

○体力の向上は、体育の授業において明確な目標設定と豊かな運動量の確保によって図れます。広い運動場や中庭・遊具場・体育館を十分に活用した体育の授業作りをしていきます。また休み時間もできるだけ体を動かすことを促します。

○食べることも体力の向上につながります。どんなものをどれぐらい食べているのか、常に意識させたいと思います。

○映像教材等も活用して、歩行や自転車走行時の事故の恐ろしさを指導していきます。



## 学校運営協議会理事様・地域の方々からの意見と評価

※今回の自由記述欄では、児童の交通安全意識についておたずねしました。

○横断歩道を素早く渡るという意識がないように思います。

○登校時は70～80%ぐらいが右側通行をしています、下校時は50%以上の児童がふざけながら道の真ん中を歩いたり走ったりするのが目立ちます。

○自転車の乗り方は、一人で走っているときはゆっくり安全に走っていますが、友達2～3人のときは曲がり角でもスピードを落とさず危ないときもあり、絶えず注意しています。

○だいたい児童は安全に注意して歩いていますが、時には興味につられてよそ見をしたり話したりして歩いています。

※その他の全般的にいただいたご意見です。

○アンケートでは「元気のよい挨拶をしていると思いますか」という設問に対して“あまりできていない”という回答が半数以上寄せられました。登校時に見守り隊の方や近所の方には挨拶できても、校内で会ったときや放課後地域で見かけたときには挨拶ができない児童が多くいるということでしょう。

○「相手に伝わる声の大きさを話したり発表したりする」という設問に対してもやや低い評価でした。あとの話し合いの中でもはっきりとした声で挨拶ができる児童が少ないという意見もいただきました。話すときの声が小さい、自分から話さなければならないときも話せない、またはとても小さな声になるという実態です。これは話すことに自信がない、目立つのを嫌うなどの理由があると思われます。

○けじめをつけるのが難しいようです。時と場をわきまえない、注意されてもスパッとやめない、我慢ができない、人と同じことをしていると安心できる…そのような姿が時折見られます。「叱られない」という思いがあるようです。大人が良い例を見せること、子どもの心に訴えることが大事です。

○親と子が一緒に何かをすることはとても大切です。それぞれの家庭にはいろいろと事情もあるでしょうが、ちょっとした時間を見つけてできることを考えていきたいと思います。1日1食は親子で一緒に食事をするとか、宿題や自由学習の点検を親子でするとか、親子読書、親子スポーツ…何かの機会を見つけて、親子のふれあいができるようにしたいものです。

○地域の家庭状況をとらえる。プライバシーの問題もありますが、近所付き合いを大事にして困ったときは助け合える関係を作ることも大切だと思います。

※アンケートの項目について。来年度は客観的に評価できる設問や回答を考えていきます。そしてどんなことができれば「できる」と評価するのかを具体的に示したいです。例えば95%以上（いつも、毎回）なら「できる」、70%以上（ときどき忘れることもある）が「大体できる」10回に3回ぐらいはする（忘れることが多い、気がついたときだけする）は、「あまりできない」それ以下（滅多にしない）は「がんばろう」と決めるとかの方法も考えたいと思います。



平成26年度もいろいろなことができました。子どもたちも一年間のまとめをしましたが、学校としても今年度1年間の振り返りと来年度へ向けての方策・取組をまとめることができました。この1年間で子ども達は学習の進め方を知り、相手に向かって自分の想いを話す大切さがわかってきたように思います。相手の気持ちを考えることの大切さは今以上に身に付けてほしいと思います。校内環境はずいぶんよくなっています。まだまだ課題は多いとは思いますが、嵯峨野小学校の子ども達はこれからもこの環境を存分に使って大きく成長してくれるでしょう。  
ここまでアンケートを始めいろいろなことにご協力いただきましてありがとうございます。保護者。地域を始め関係の方々に感謝いたします。

## ☆いろいろな場面でごんばっている子どもたち

